

第4学年1組 道徳学習指導案

篠栗町立篠栗小学校

1 主題名及び資料名

親切はみんなの喜び 2－(2)「相手のことを思いやり、進んで親切にする」 資料名「心の信号機」(学研)

2 主題設定の理由

内容項目の解釈	児童の実態
<p>「親切」とは、他人に対する思い入れの深切であること、深くなることである。決して単なる行為のふるまい方であるに止まるのでなく他人に対する深く切なる心がこもっていなければならないのである。すなわち、相手の立場を尊重しながら、手助けが必要かどうかよく考え判断し行動に移す。それはまた、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。人からほめられるとか非難を恐れるとかいうような打算が働いての行動であってはならないのである。</p> <p>中学年2－(2)に関しては、低学年において、幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることの大切さを学習した。これを受けて、本主題では、相手の現在の状況、困っていることなどを想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことの大切さをとらえさせたい。これは、高学年における「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする」ことの学習へと発展する。</p>	<p>本学級の児童は、外遊びや体育館でのレクリエーションが大好きで、休み時間など声をかけ合いながら元気にボール遊びをするなど友だちと関わりながら遊ぶ姿も多く見られる。しかし、日常の学校生活を見てみると、相手のことを考えない行動や発言が原因で友だちとのトラブルが生じることもある。</p> <p>これは、相手の気持ちを考えることよりも、集団の中で自分の思いを通したいという自己中心的な考えにとどまっているからであると考えられる。</p> <p>そこで、徐々に相手の気持ちを考えたり、自分の行動を振り返ったりできるようになってくるこの期に、本主題を設定する。そして、相手の立場に立って考え、手助けが必要かどうか判断し、親切にすることが大切であることに気づかせ、進んで親切にしていこうとする心情を育て、実践への意欲を高めていきたい。</p> <p>これらの学習は、親切の本義を感得させるとともに、よりよい生き方を求め続け、実践する子どもを育てる上からも意義深い。</p>

資料の含みをもつ道徳的価値
<p>本資料は、主人公が横断歩道の手前で立ち止まったままの男の人が気になりながらも、声をかけずに横断歩道を渡る。しかし、思い迷った結果、やはり男の人を「助けたい」、「自分のことより相手のことを」という気持ちから後戻りをして声をかけ手助けするという内容である。</p> <p>主人公の迷いや「手助けする」ことを決心した気持ちに共感させることにより、相手のその時、その場での心情を想像し、相手が喜ぶであろうことを考えて行動することが大切であるということを感じ、道徳的価値に迫ることができる。と考える。</p>

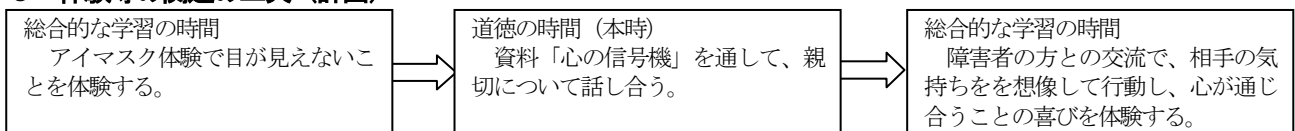
3 本時の目標

<p>(1) 困っている人に気づいた時、相手がどうしてほしいかを考え、自分のことより相手のことを考えて行動することがわかり、必要かどうか判断して親切にしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 事前アンケートをもとに生活経験からめあてを設定し、録音資料や構造図で資料の状況把握を行い、資料中の主人公の気持ちや考えを吹きだしへの表現や交流により推しはかり、これまでの自分の生活経験における思いやり・親切を振り返ることにより、思いやり・親切の価値を感得できるようにする。</p>
--

4 本時学習の工夫点

「見つめる」段階における工夫	「推しはかる」段階における工夫	「見つめ直す」段階における工夫
<p>「思いやりの心・親切」について方向付けをするために、事前アンケート結果を提示し、生活場面において、「相手のことを思って親切にできたこと」「親切にできなかったこと」についての体験を振り返らせる。そして、どちらの自分でありたいかという問いをもとに、「困っている人に気づいた時、大切な心について考えよう」という本時のめあてをもつことができるようにしたい。</p>	<p>読み物資料「心の信号機」を共感的に活用する。まず、構造図を使つて的確な状況把握を行い、「足はゆっくりになってしまった」ところを動作化させ、主人公の気持ちに共感させ、吹き出しに気持ちを書かせる。次に、「声をかける」ことを決心した主人公の気持ちを吹き出しに書かせ、交流した後、主人公をそうさせた強い思いについて問い、話し合うことにより、道徳的価値を見出す。ここで、アイマスク体験に基づいた考えを出させたい。</p>	<p>主人公のように、「するかしないか迷いながらも親切にしたこと」を振り返らせ、紹介しあうことにより、自分自身の中にある思いやりの心について見つめ直させ、価値の主體的自覚を図る。さらに、アイマスク体験での写真を提示し、相手の身になったサポートができていたことに気づかせることにより、親切をこれからも行っていきたいという実践への意欲化を図る。</p>

5 体験等の関連の工夫(計画)



6 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の支援
見 つ め る	<p>1 事前アンケートの結果をもとにこれまでの体験を想起し、学習のめあてについて話し合う。</p> <p><困っている人に気づいた時></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><助けた> バスでお年寄りに席を譲った ↓ きつそうだったから ↓ 席を譲ってよかった</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><助けられなかった> 電車にお年寄りが乗ってきた ↓ 誰かが席を譲るだろう ↓ 席を譲ればよかった</p> </div> </div> <p>【めあて】困っている人に気づいた時、どんな心が大切か考えよう。</p> <p>2 資料「心の信号機」をもとに主人公の気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) 資料の状況について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにたのまれてのお使いの途中 ・目の不自由そうな男の人に気づいた ・いつまでもつつ立ったまま ・引き返して手伝ってあげよう <p>(2) 足はゆっくりになってしまった時の主人公の気持ちについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人だしはずかしい ・助けたいけど、勇気がでない ・なんて声をかけたらいいのか分からない ・誰かが助けてくれるだろう。 </div> <p>(3) 男の人に声をかける決心をした主人公の気持ちについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・おじさんが事故にあったら大変だ ・やっぱりおじさんは困っているから助けたい ・おつかいより、今は手伝う方が大事 ・自分が今助けないといけない </div> <p>(4) 男の人に声をかけ、ほっとしたぼくの気持ちについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・おじさんが無事に渡れてよかった ・おじさんの手助けができてよかった ・おじさんが喜んでくれてよかった </div>	<p>○ これまでの生活における体験を想起させ、めあてにつなげるために、事前アンケートを提示し、困っている人に気づいた時、「助けたこと」と「助けることができなかったこと」について体験を振り返らせる。</p> <p>○ 場面の状況把握を簡潔に行うために構造図やさし絵を使う。</p> <p>○ 声をかけようと歩き出したが、なかなか声をかけることができない主人公の気持ちに共感させるため、動作化を行った後、吹き出しに書かせ、交流する。</p> <p>○ 声をかける決心をした主人公の気持ちに気づかせるために、主人公の気持ちを吹き出しに書かせ、交流させる中で、思考を深め、価値に迫るために以下の観点から深める問いを行う。その際、アイマスク体験と重ねながら考えさせるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お使いの途中なのでは？ ・あなたが教えなくても他の人が助けてくれのでは </div> <p>○ 親切にできた後の快感情を視覚的にとらえさせるために、心情カードの色で表し、黒板に提示する。</p>
見 つ め 直 す	<p>3 自分たちの生活を振り返り、友達のことを考えて行動できたことについて話し合う。</p> <p>(1) 自分の生活を振り返り、主人公と同じような心を自分自身の内面に見出す。</p> <p>(2) アイマスク体験の写真提示により、実践への意欲化を図る。</p>	<p>○ 自分の中にある友達を思う心を実感させるため、これまでの生活を振り返らせる。</p> <p>○ 実践の意欲化を図るために、アイマスク体験で友達を助けた時の写真を提示し、相手のことを思いやり、進んで親切にすることの大切さを感じ取らせる。</p>